

## 看護婦自身が抱く現実と理想，マスメディアのイメージの差

臼井千津<sup>1\*</sup>，中田康夫<sup>1\*</sup>，佐々木和義<sup>1\*</sup>，真嶋由貴恵<sup>2\*</sup>，渡部真理<sup>3\*</sup>，河口真奈美<sup>1\*</sup>

<sup>1\*</sup>神戸市看護大学，<sup>2\*</sup>岡山理科大学大学院，<sup>3\*</sup>Oregon Health Sciences University

### Analysis of How Nurses Have the Image of the Nurse in Reality, in Ideal and in Mass Media

Chizu USUI<sup>1\*</sup>， Yasuo NAKATA<sup>1\*</sup>， Kazuyoshi SASAKI<sup>1\*</sup>，  
Yukie MAJIMA<sup>2\*</sup>， Mari WATANABE<sup>3\*</sup>， Manami KAWAGUCHI<sup>1\*</sup>

<sup>1\*</sup>Kobe City College of Nursing， <sup>2\*</sup>Okayama University of Sciences (postgraduate)，  
<sup>3\*</sup>Oregon Health Sciences University (postgraduate)

#### Abstract

In Japan people are associated nurses with a white uniform, white nurses' cap and white stockings in most cases and there is no sign of change the image of the nurse in over 50 years.

The purpose of this research was to investigate how nurses have the image of the nurse in reality, in ideal and in mass media. The sample consisted of 171 female nurses worked at several hospitals. The questionnaire packet used in this research made by the researcher. It has 64 items in each 3 categories such as in reality, in ideal and in mass media. In reality, subjects were associated nurses with a strong physical fitness, busy, powers of observation and so on strongly. In ideal, subjects are associated nurses with a white nurses uniform, a cap and a shoes and so on strongly. In mass media, subjects are associated nurses with a white nurses' uniform, a cap and a shoes and so on strongly. The findings of this research suggest that the image of the nurse of nurses is great different among in reality, in ideal and in mass media.

**Key words:** 看護婦イメージ (The image of the nurse), 現実 (reality), 理想 (ideal), メディア (mass media)

#### はじめに

看護職のイメージに関する研究に取り組む必然性を見いだしたきっかけには、次のことが存在している。平成8年度に開学した新設看護大学として学生の臨床実習にあたり、実習時に着用する実習着・服装（以後ユニフォームとする）について、教員、学生共に考える機会を持ったことに発した。

看護学生のユニフォームといえば大方、看護婦と同様の服装が踏襲され、きわめて細かな服装の制約、制服の中で看護の実習・教育が行われてきた経緯があり<sup>1)</sup>、現在においても一部の看護系大学を除いてほとんど変化は見られてない<sup>2)</sup>。また、わが国の看護婦の外見は“白衣・キャップ<以後白衣とする>”少なく

とも過去50年、ほとんど変わっていない<sup>3)</sup>との指摘もされて久しい。不変的な看護婦の外見から発するイメージは、女性といえば看護婦と言う意味<sup>4)</sup>の強調であり、他の女性管理職や専門職者に見られる知的、積極的、自立的といったイメージは見えにくい<sup>5)</sup>。これらのイメージは、歴史、特に女性史、社会・文化、ジェンダー、女性と労働などの影響やその他、多くの要因から形成されていることを文献から検討し本学紀要1号に報告した<sup>1)</sup>。

イメージは他者とのコミュニケーションに重要な役割を果たすといわれており<sup>6)</sup>、専門職を指向するものであれば職業、役割についてのイメージは重要である。特に高齢化社会により看護を提供する場が地域社会に拡大している現在、看護職自身は利用者に“どう見ら

れたいか、どういうイメージでありたいか”など、看護職自身が考えることが重要であろう。このような看護婦自身が描く現実の看護婦像（以後現実像）、理想とする像（以後理想像）、テレビのドラマ、新聞、雑誌などマス・メディアの中に描かれている像（以後メディア像）などについての研究は見られず、イメージに関する違いを明らかにすることに研究の意義を見いだした。

### 1. 研究目的

看護婦自身が抱く看護婦の現実・理想・メディアにおけるイメージを調査・分析しその違いを明らかにすることを目的とした。

## 研究方法

### 1. 調査項目の選定

イメージの概念・枠組みを心理学的に検討し、表象像をイメージとして用いることとし<sup>7)</sup>、次に日米における看護婦イメージ関連する研究（和文70編、欧文20編）の文献検討を行った。そして、1991年度以降の看護イメージに関連する調査研究25編を検討し、さらにイメージ調査の対象が異なる論文、看護学生、看護婦、一般社会人、大学生、男子看護学生などにおける調査項目を検討（谷ら<sup>8)</sup>、石井ら<sup>9)</sup>、真鍋ら<sup>10)</sup>、小野寺ら<sup>11)</sup>、縄ら<sup>12)</sup>）をした。項目には、多く使用されている形容詞、形容動詞を抽出し44項目を採用することとした。さらに、前述の論文では使われてこなかった、また、44項目におおよそ相反するイメージの同じく形容詞、形容動詞を検討し、卑わい、陰険、威圧的など20項目を独自の項目として加えた。表2の項目番号に独自の項目は\*印を記し示した。最終的に、あわせて64項目による質問紙を作成した。

さらに、看護職の仕事を利用者に絵で分かり易く説明・紹介している米国の例を参考にして、10の場面（図1）を現実の看護職のイメージとして表した独自の図を作成した。

現実像、理想像、メディア像の3つの側面から、「弱い(1)～強い(4)」の4段階で評定を添付した。絵についても同様に4段階評定を添付し、最後に、イメージに関する自由記載欄を設けた。

### 2. 調査の対象者

調査の対象は、100床以上の病院、5ヶ所の看護職とし、対象の勤務地は都市部と郡部に分散し、地域的

なバランスを図り実施した（表1）。

調査の回収率は91.7%で188名、そのうち有効回答者は177名であるが今回の分析対象は女性のみ171名とした。

### 3. 調査の手続き

調査は各施設に倫理的配慮面から検討のうえで承諾を得て、協力を得られた人にも無記名、封書による郵送で行った。

調査期間は平成9年1月～平成9年3月の3ヶ月間とした。

### 4. 分析方法

各像の64項目、全ての平均値と標準偏差を算出し、各項目毎に現実像と理想像の間でF検定を実施したのちに、対応のあるt検定を行った。次に現実像とメディア像との間でF検定をしたのちに対応のあるt検定を実施した。

絵による看護職の現実像の10項目については、平均値と標準偏差を算出した。

## 結果

### 1. 調査対象と背景

対象の年齢層は、20～30歳代が121人(70%)であった。

（平均年齢：33.75歳、20歳～59歳まで）

看護職の資格では、看護婦が144人(84%)でほとんどであり、次いで准看護婦、助産婦、保健婦、また、救命救急士、養護教諭などの資格を有するものも少数いた。

学歴では高校卒業後に看護専門学校で学んだ者が122人(71%)であり、短期大学、大学以上の人も少なからずいた。

職位では役職についていない一般の看護婦が134人(78%)とほとんどであった。

勤務場所は病棟勤務が146人(85.4%)であり病棟の診療科は内科、外科病棟と標榜していても混合病棟が多く、センター的機能を有しているところが多かった。その他として、転職の経験、職場を変えたことの経験がない人が103人(60%)、1回の転職は36人(21%)、3回以上は18人(10.5%)がいた。

職場のユニフォームに関する背景としては、全員が白のユニフォームを着用していた。そのうち規定の服装であると回答した人は145人(84.7%)であり、選

表1 調査対象の施設背景

病院の種類	設立主体	所在地	分析数(人)
1. 一般病院	医療法人	A町	50人
2. 一般病院	共済組合	都内	20人
3. 一般病院	共済組合	都内	44人
4. 一般病院	市町村	B町	31人
5. 一般病院	福祉法人	H市	26人
(高度総合診療施設)			
合計171(女性のみ)			

\*配布数205, 回収数188 (91.7%), 有効回答者177

択枝のある自由の人が26人(15.2%)いた。キャップに関しては規定で着けている場合が125人(73%), キャップは自由で着けていないのは46人(26.9%)である。キャップに関しては、対象施設5ヶ所のうち、2ヶ所は自由とする方針を表明し、決定にいたる過程においては、看護部として利用者である患者、家族への影響を考え勉強会を設けて実施した経緯と、キャップの着用を自由とした後の利用者の反響を調査し、結果を提示していた。

## 2. 現実像

全64項目の平均点±標準偏差は、表2のとおりである。64項目のうち平均点が3.5点以上の項目を高い順に列挙すると、「24. 体力が必要な」、「26. 忙しい」、「55. 観察力を要す」、「1. 白衣」、「15. 責任感のある」の5項目であった。一方、平均点が1.5未満の項目を低い順に列挙すると、「14\*. 卑わい」、「12\*. めめしい」、「41\*. セクシーな」、の3項目であった。

## 3. 理想像

全64項目の平均点±標準偏差は、表2のとおりである。64項目のうち平均点が3.5点以上の項目を高い順に列挙すると、「55. 観察力を要す」、「22. 正確な」、「15. 責任感のある」、「40. 専門的」、「56. 技術の熟達」、「20. 健康的な」、「25. あたたかい」、「21. やりがいのある」、「10. 清潔な」、「39\*. コミュニケーションが上手」、「11. 明るい」、「24. 体力が必要な」、「46. テキパキ」、「52. 自立」、「16. 活発な」、「9. 誠実な」、「59. 親しみやすい」、「7. やさしい」、「38. 応用力がある」、「57. 信頼できる」、「45. さわやか」、「18. 知的な」、「64. 将来性のある」、「34. 協調性のある」、「48. 勤勉な」の25項目であった。一方、平均点が1.5未満の項目を低い順に列挙すると、「12\*. めめしい」、「14\*. 卑わい」、「22\*.

恐ろしい」、「27\*. 陰険な」、「23. 冷たい」、「41\*. セクシーな」の6項目であった。

## 4. メディア像

全64項目の平均点±標準偏差は、表2のとおりである。64項目のうち平均点が3.5点以上の項目を高い順に列挙すると、「1. 白衣」、「2. キャップ」、「4. 白い靴」、「11. 明るい」、「5\*. 美人」の5項目であった。一方、平均点が1.5未満の項目は全くない。

## 5. 現実像と理想像との比較

現実像の得点が理想像のそれより有意に高かった項目は、「1. 白衣」、「2. キャップ」、「3. 白い靴」、「12\*. めめしい」、「14\*. 卑わい」、「23. 冷たい」、「26. 忙しい」、「27\*. 陰険な」、「30. 危険のある」、「32. 低賃金の」、「42. 汚い」、「43\*. 従順」、「49\*. 保守的」、「51. 気が強い」、「58\*. 威圧的」、「62\*. 恐ろしい」(以上、 $p < 0.001$ )、そして、「3. 白いストッキング」、「44\*. プライドが高い」(以上、 $p < 0.01$ )の18項目である。そして、「41\*. セクシーな」(以上、 $p < 0.1$ )の1項目であった。

一方、理想像の得点が現実像のそれより有意に高かった項目は、「6. 清楚な」、「7. やさしい」、「8\*. たくましい」、「9. 誠実な」、「10. 清潔な」、「11. 明るい」、「13. かわいい」、「15. 責任感のある」、「16. 活発な」、「18. 知的な」、「19\*. 育ちの良い」、「20. 健康的な」、「21. やりがいのある」、「22. 正確な」、「25. あたたかい」、「28\*. 楽しい」、「29\*. 緻密な」、「31. 安定した」、「33. 探求的な」、「34. 協調性のある」、「36\*. 経済的観念のある」、「37. 理性的」、「38. 応用力がある」、「39\*. コミュニケーションが上手」、「40. 専門的」、「45. さわやか」、「46. テキパキ」、「47. 科学的な」、「48. 勤勉な」、「50. 価値のある」、「52. 自立」、「53. 倫理的」、「54\*. 理論的」、「55. 観察力を要す」、「50. 技術の熟達」、「57. 信頼できる」、「59. 親しみやすい」、「60\*. 研究的」、「63. 女らしい」、「64. 将来性のある」(以上、 $p < 0.001$ )、「5\*. 美人」(以上、 $p < 0.05$ )の41項目であった。

なお、両群間で有意差のなかった項目は、「17. きびしい」、「24. 体力が必要な」、「35\*. 管理的」、「61\*. 個性的」の4項目であった。

## 6. 現実像とメディア像との比較

現実像の得点がメディア像のそれより有意に高かった項目は、「8\*. たくましい」、「15. 責任感のある」、「21. やりがいのある」、「22. 正確な」、「24. 体力が必要な」、「26. 忙しい」、「29\*. 緻密な」、「30. 危険のある」、「32. 低賃金の」、「33. 探求的な」、「34. 協調性のある」、

表2 現実像・理想像・メディア像における平均点と標準偏差

	現実像	理想像	メディア像
1. 白衣	3.58±0.65	2.98±1.08	3.68±0.60
2. キャップ	3.20±0.92	2.55±1.16	3.68±0.63
3. 白いストッキング	1.93±0.99	1.71±0.96	3.36±0.91
4. 白い靴(ナースシューズ)	2.98±1.00	2.49±1.16	3.54±0.71
5*. 美人	2.13±0.78	2.31±0.99	3.52±0.63
6. 清楚な	2.77±0.88	3.25±0.79	3.30±0.80
7. やさしい	3.11±0.76	3.62±0.52	3.40±0.73
8*. たくましい	3.14±0.75	3.37±0.68	2.67±1.02
9. 誠実な	3.13±0.72	3.63±0.54	3.16±0.78
10. 清潔な	3.20±0.74	3.73±0.49	3.27±0.79
11. 明るい	3.33±0.59	3.70±0.51	3.52±0.56
12*. めめしい	1.43±0.58	1.21±0.48	1.92±0.90
13. かわいい	2.06±0.85	2.41±0.98	3.28±0.76
14*. 卑わい	1.43±0.70	1.23±0.46	2.12±0.95
15. 責任感のある	3.52±0.65	3.83±0.45	2.92±0.94
16. 活発な	3.33±0.64	3.64±0.51	3.22±0.73
17. きびしい	3.05±0.76	2.99±0.84	2.72±0.92
18. 知的な	2.98±0.65	3.57±0.58	2.75±0.92
19*. 育ちの良い	2.10±0.73	2.36±0.91	2.39±0.81
20. 健康的な	3.42±0.72	3.81±0.43	3.26±0.70
21. やりがいのある	3.47±0.70	3.76±0.53	3.09±0.88
22. 正確な	3.33±0.66	3.83±0.41	2.81±0.89
23. 冷たい	1.90±0.82	1.37±0.62	2.14±0.87
24. 体力が必要な	3.70±0.55	3.69±0.50	2.72±1.00
25. あたたかい	3.37±0.65	3.76±0.47	3.15±0.76
26. 忙しい	3.68±0.60	2.45±1.01	2.90±0.99
27*. 陰険な	1.74±0.83	1.33±0.71	2.04±0.87
28*. 楽しい	2.59±0.82	3.36±0.73	2.84±0.83
29*. 緻密な	2.79±0.75	3.08±0.78	2.30±0.84
30. 危険のある	3.32±0.76	2.45±1.06	2.38±1.02
31. 安定した	2.77±0.78	3.37±0.70	2.63±0.93
32. 低賃金の	2.84±0.85	1.93±1.08	2.22±0.99
33. 探求的な	2.85±0.73	3.40±0.69	2.20±0.86
34. 協調性のある	3.01±0.70	3.54±0.58	2.53±0.81
35*. 管理的	2.74±0.75	2.70±0.85	2.42±0.92
36*. 経済的観念のある	2.44±0.71	3.03±0.74	2.18±0.84
37. 理性的	2.67±0.73	3.29±0.69	2.46±0.86
38. 応用力がある	2.91±0.64	3.62±0.58	2.39±0.92
39*. コミュニケーションが上手	3.03±0.70	3.73±0.51	2.99±0.84
40. 専門的	3.41±0.74	3.82±0.40	2.71±1.04
41*. セクシーな	1.48±0.62	1.40±0.63	2.69±0.90
42. 汚い	2.40±1.04	1.61±1.87	1.88±0.92
43*. 従順	2.26±0.79	1.96±0.86	2.50±0.90
44*. プライドが高い	2.43±0.80	2.22±0.87	2.77±0.85
45. さわやか	3.01±0.64	3.61±0.58	3.23±0.69
46. テキパキ	3.33±0.64	3.66±0.50	2.97±0.85
47. 科学的	2.69±0.75	3.32±0.79	2.19±0.85
48. 勤勉な	2.92±0.70	3.54±0.60	2.39±0.93
49*. 保守的	2.45±0.73	2.14±0.88	2.51±0.88
50. 価値のある	3.11±0.74	3.47±0.64	2.61±0.87
51. 気が強い	3.12±0.73	2.47±0.85	2.81±0.81
52. 自立	3.33±0.70	3.66±0.51	2.77±0.88
53. 倫理的	2.78±0.70	3.32±0.73	2.39±0.84
54*. 理論的	2.76±0.68	3.33±0.70	2.37±0.85
55. 観察力を要す	3.63±0.57	3.83±0.38	2.54±1.00
56. 技術の熟達	3.46±0.69	3.81±0.41	2.56±0.91
57. 信頼できる	3.30±0.63	3.61±0.45	2.73±0.90
58*. 威圧的	2.27±0.78	1.71±0.93	2.21±0.94
59. 親しみやすい	2.95±0.64	3.63±0.59	2.98±0.76
60*. 研究的	2.63±0.75	3.41±0.70	2.14±0.86
61*. 個性的	2.94±0.77	3.12±0.71	2.83±0.90
62*. 恐ろしい	1.71±0.82	1.27±0.65	1.97±0.91
63. 女らしい	2.20±0.78	2.68±0.94	2.85±0.82
64. 将来性のある	2.95±0.81	3.57±0.68	2.50±0.93

\*研究者が独自に作成した項目

表3 現実像と理想像およびメディア像との2群間での比較

白衣	現実>理想***	現実<メディア†
キャップ	現実>理想***	現実<メディア***
白いストッキング	現実>理想**	現実<メディア***
白い靴(ナースシューズ)	現実>理想***	現実<メディア***
美人	現実<理想*	現実<メディア***
清楚な	現実<理想***	現実<メディア***
やさしい	現実<理想***	現実<メディア***
たくましい	現実<理想***	現実>メディア***
誠実な	現実<理想***	現実=メディア <sup>ns</sup>
清潔な	現実<理想***	現実=メディア <sup>ns</sup>
明るい	現実<理想***	現実<メディア**
めめしい	現実>理想***	現実<メディア***
かわいい	現実<理想***	現実<メディア***
卑わい	現実>理想***	現実<メディア***
責任感のある	現実<理想***	現実>メディア***
活発な	現実<理想***	現実=メディア <sup>ns</sup>
きびしい	現実=理想 <sup>ns</sup>	現実>メディア†
知的な	現実<理想***	現実>メディア**
育ちの良い	現実<理想***	現実<メディア***
健康的な	現実<理想***	現実>メディア*
やりがいのある	現実<理想***	現実>メディア***
正確な	現実<理想***	現実>メディア***
冷たい	現実>理想***	現実<メディア**
体力が必要な	現実=理想 <sup>ns</sup>	現実>メディア***
あたたかい	現実<理想***	現実>メディア**
忙しい	現実>理想***	現実>メディア***
陰険な	現実>理想***	現実<メディア***
楽しい	現実<理想***	現実<メディア*
緻密な	現実<理想***	現実>メディア***
危険のある	現実>理想***	現実>メディア***
安定した	現実<理想***	現実>メディア†
低賃金の	現実>理想***	現実>メディア***
探求的な	現実<理想***	現実>メディア***
協調性のある	現実<理想***	現実>メディア***
管理的	現実=理想 <sup>ns</sup>	現実>メディア***
経済的観念のある	現実<理想***	現実>メディア***
理性的	現実<理想***	現実>メディア**
応用力がある	現実<理想***	現実>メディア***
コミュニケーションが上手	現実<理想***	現実=メディア <sup>ns</sup>
専門的	現実<理想***	現実>メディア***
セクシーな	現実>理想†	現実<メディア***
汚い	現実>理想***	現実>メディア***
従順	現実>理想***	現実<メディア**
プライドが高い	現実>理想**	現実<メディア***
さわやか	現実<理想***	現実<メディア*
テキパキ	現実<理想***	現実>メディア***
科学的	現実<理想***	現実>メディア†
勤勉な	現実<理想***	現実>メディア***
保守的	現実>理想***	現実=メディア <sup>ns</sup>
価値のある	現実<理想***	現実>メディア***
気が強い	現実>理想***	現実>メディア***
自立	現実<理想***	現実>メディア***
倫理的	現実<理想***	現実>メディア***
理論的	現実<理想***	現実>メディア***
観察力を要す	現実<理想***	現実>メディア***
技術の熟達	現実<理想***	現実>メディア***
信頼できる	現実<理想***	現実>メディア***
威圧的	現実>理想***	現実=メディア <sup>ns</sup>
親しみやすい	現実<理想***	現実=メディア <sup>ns</sup>
研究的	現実<理想***	現実>メディア***
個性的	現実=理想 <sup>ns</sup>	現実=メディア <sup>ns</sup>
恐ろしい	現実>理想***	現実<メディア**
女らしい	現実<理想***	現実<メディア***
将来性のある	現実<理想***	現実>メディア***

†p<0.1, \*p<0.05, \*\*p<0.01, \*\*\*p<0.001, <sup>ns</sup> non significant

絵による現実イメージ

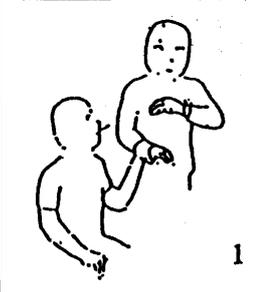
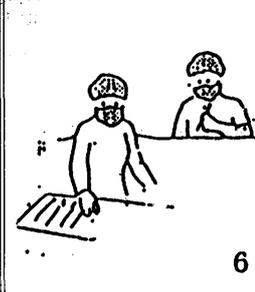
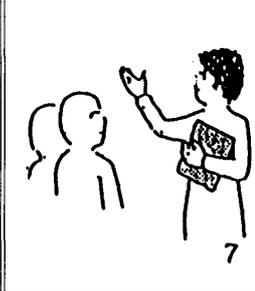
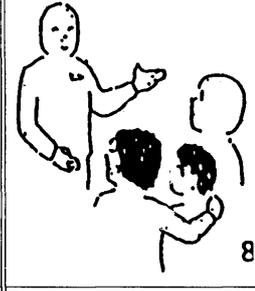
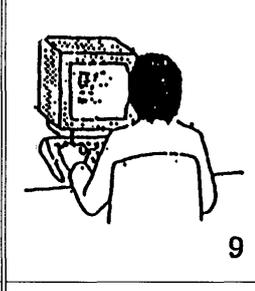
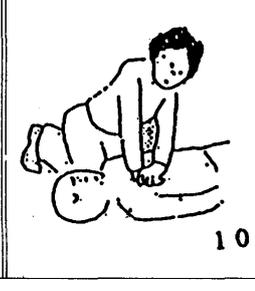
	弱 やや弱 やや強 強		弱 やや弱 やや強 強
 1	1 2 3 4	 6	1 2 3 4
 2	1 2 3 4	 7	1 2 3 4
 3	1 2 3 4	 8	1 2 3 4
 4	1 2 3 4	 9	1 2 3 4
 5	1 2 3 4	 10	1 2 3 4

図1

「35. 管理的」、「36. 経済的観念のある」、「38. 応用がある」、「40. 専門的な」、「42. 汚い」、「46. テキパキ」、「48. 勤勉な」、「50. 価値のある」、「51. 気が強い」、「52. 自立」、「53. 倫理的」、「54. 理論的」、「55. 観察力を要す」、「56. 技術の熟達」、「57. 信頼できる」、「60. 研究的」、「64. 将来性のある」(以上 $p<0.001$ )、「18. 知的な」、「25. あたたかい」、「37. 理性的」(以上 $p<0.01$ )、「20. 健康的な」(以上、 $p<0.05$ )の32項目であり、このような傾向があった項目が「17. きびしい」、「31. 安定した」、「47. 科学的な」(以上、 $p<0.1$ )の3項目であった。

一方、メディア像の得点が現実像のそれより有意に高かった項目は、「2. キャップ」、「3. 白いストッキング」、「4. 白い靴」、「5. 美人」、「6. 清楚な」、「7. やさしい」、「12. めめしい」、「14. かわいい」、「14. 卑わい」、「19. 育ちの良い」、「27. 陰険な」、「41. セクシーな」、「44. プライドが高い」、「63. 女らしい」(以上、 $p<0.001$ )、「11. 明るい」、「23. 冷たい」、「43. 従順」、「62. 恐ろしい」(以上、 $p<0.01$ )、「28. 楽しい」、「45. さわやか」(以上、 $p<0.05$ )の20項目であり、このような傾向があった項目が「1. 白衣」(以上、 $p<0.1$ )の1項目であった。なお、両群間で有意差のなかった項目は「9. 誠実な」、「10. 清潔な」、「16. 活発な」、「39. コミュニケーションが上手」、「49. 保守的」、「58. 威圧的」、「59. 親しみやすい」、「61. 個人的」の8項目であった。

## 7. 絵による現実像

絵による現実像の10項目の平均値と標準偏差は、絵1(脈拍、体温等の測定)は、 $3.68 \pm 0.56$ 点、絵2(状態の聴取)は $2.75 \pm 0.96$ 点、絵3(与薬、薬の管理)は $3.52 \pm 0.67$ 点、絵4(輸液の管理)は $3.79 \pm 0.45$ 点、絵5(検討会・会議)は $2.25 \pm 0.92$ 点、絵6(手術・介助技術)は $3.28 \pm 0.78$ 点、絵7(説明)は $2.23 \pm 0.89$ 点、絵8(患者、家族指導、教育)は $2.42 \pm 0.87$ 点、絵9(情報、データの操作、管理)は $1.62 \pm 0.76$ 点、絵10(救命救急)は $2.79 \pm 0.90$ 点であった。上記のうち、平均点が3.5点以上ものは、絵1、絵3、絵4の3項目であり、2点未満のものは絵9であった。

## 8. 自由記載より

看護婦イメージに関する意見、改善への具体策等について記載された結果を1)～4)に述べる。

1) マスメディアを利用して看護職の仕事をアピールする

- a. TVのトクキュメンタリー番組を増やす  
看護の専門、テーマ別に特別番組、コマーシャルを入れる
  - b. 低レベル、イメージがかけ離れているものには抗議を職能団体で行う
  - c. 一般新聞への投稿
- 2) 専門性を外部(病院外、一般等)で提供、生かす。  
地域、講演活動(老人クラブ、民間の会社、集会等)
- 3) 病院施設を一般、地域へ開放する  
中、高校生、ボランティアを積極的に受け入れる
- 4) 訪問看護などの役割、業務を社会に具体的にPRする。  
インターネット活用の有用性の強調等。

## 考 察

### 1. 調査背景と背景

調査対象と背景では、ほとんどが役職に付いていない一般の看護婦であり、学歴では高等学校卒業後に看護専門学校に学んでいる。年齢は20～30歳代の若い層であった。勤務場所はほとんどが病棟に勤務しており、診療科では混合病棟として機能している状況にあった。また、6割の人が職場を変った経験がないといった状況は、病院に勤務する看護婦の平均的な背景とほぼ一致を見比較的安定的な職場環境にあるといえよう<sup>13)</sup>。

### 2. 現実像

1) 現実像で強いと応えたイメージは、「24体力が必要」、「26忙しい」が最も強く、次いで「55観察力が必要」であった。このことは、対象者のほとんどは病棟勤務の看護婦であり、日頃の看護業務内容、労働条件の実態をそのまま表しているといえよう。

看護婦の勤務時間、超過勤務時間の調査においては、「超過勤務をした正職員は81.1%で、この値は89年調査と同じである<sup>14)</sup>とあるが、しかし、1995年、同様の調査報告書では若干の改善が見られているとあるが<sup>15)</sup>、現実もイメージも忙しい。また、看護業務内容の実態調査においても、バイタルサインズの測定(体温、脈拍、血圧などの測定、以後V・Sとする)や清潔、輸液の管理といった内容は変わらず仕事の多くを占めており、また、周辺業務、いわゆる補助業務の分担も整理の困難な状況ともいわれ、看護婦はまさに体力、忙しい、観察力が必要であることの実態である<sup>16)</sup>。

2) 弱いイメージは、「12\*めめしい」、「14\*卑わい」、「41\*セクシー」であり、専門の職業を担うものとしては否定される職業倫理、病院倫理、社会的役割のイメージなどを認識しているところのあらわれと評価される<sup>17, 18)</sup>。

### 3. 理想像

1) 理想像における強いイメージとしては、「55観察力を要する」、「22正確な」、「15責任感のある」、「40専門的」、「56技術の熟達」、そして、「20健康的な」、「25あたたかい」、「21やりがいのある」といった順序であった。

看護の将来的役割の中で<sup>19)</sup>、「おそらく、情報を処理し、未来の不確実性に適応する才能のあることが、過去の学業成績評点や<私はつねに人々を援助したいと思っていました>という言葉の中に通常込められている願望よりも未来の看護婦にとって望ましい資質である」と述べられていることは、目標としたい像の一側面でもあろう。しかし、専門職として理想とする像を描くことは難しいともいえる。その要因としては現実の病院の看護では、患者に対する実践は医師が出す「指示」に基づくといったシステム、環境の中で理想とする目標、理念、像を見いだすことはできにくいといえる。

### 4. メディア像

メディア像は、白衣、キャップといった看護婦の外見、美人、清楚といった女性性でいわゆるステレオタイプそのものの像であると明確に捉えていた。女性のステレオタイプな特質として<sup>20)</sup>、挙げられている項目に、依存的、受動的、もろい、非攻撃的、非競争的、他人に訓練される、感情移入的、主観的、順応的などである。一方、男性のステレオタイプとしては<sup>20)</sup> 独立的、競争的、仕事指向、自己訓練できる、冷静な、客観的などであり、女性の特質は、適切な行動とは相反し平等の視点では明らかに矛盾するものである。弱いイメージとして否定的な人格はさておき、研究的、経済的観念、研究的、科学的、理論的といった項目が下位にあることは、メディアの日頃の看護婦の扱いの傾向が顕著に表されているといえる。

また、「キャップとユニフォームは「看護専門職」の印、あらわれとして扱われ、印象づけられている。しかし、ユニフォームを着るのはサービス労働者であって専門職ではないと看護婦が指摘することはめったにない<sup>20)</sup>」と明確に述べている。

## 5. 現実像、理想像およびメディア像との2群比較

### 1) 現実像と理想像との比較

現実像の得点が理想像より有意に高い項目は「1白衣」、「2キャップ」といった外見に関してであり、このことは職場の現実のあらわれといえる。理想像の得点が現実像より有意に高い項目は「6清楚」、「7やさしい」、「8\*たくましい」、「9誠実」といった41項目あるが、傾向については専門職の自律性をあわらす項目にとどまらず、多様性を有しているといえよう。また、現実像と理想像との比較では乖離が認められ、特に理想を描くことの難しい一面といえる。

### 2) 現実像とメディア像との比較

現実像の得点がメディア像より有意に高い項目では、いわゆる3K、汚い、危険、低賃金、忙しいとされる他に、現実のイメージと合致する傾向の32項目があった。例えば「24体力が必要」「21やりがいのある」「22正確な」「15責任感のある」「8\*たくましい」など。このことはメディアでは見逃されていることであろう。

メディア像の得点が現実像より高い項目では「2キャップ」、「3白いストッキング」、「5\*美人」など外見的な像と「14\*卑わい」、「27\*陰険」、「12\*めめしい」、「41\*セクシーな」など否定的な傾向が見られた。このことは看護婦の現実をより誇張されている。

両群を比較してみると全くの違いを見せており、イメージの違いが明確に表明されていた。メディアによる看護婦の取り上げかたに、改善の余地があることは明らかである。

## 6. 絵による現実イメージについて

絵による現実像では、脈拍を測定を行う、与薬を行う、輸液管理を行うの3項目の平均値が高かった。これらの項目は、臨床で行われている日常の看護業務であり、現実像と合致する。しかし、看護婦のイメージとして強い傾向は自らの業務範囲を限定することになり、これらのイメージからの早急な脱却と、イメージの転換を看護婦自身が率先して行っていく必要があると考えられる。逆に、コンピュータを操作している絵が10項目のうちで最も低い値であった。ベッドサイドでの看護実践を大切にしているわが国の看護職にとっては、ある面納得のいく結果であると考えられるが、しかし、今日、急速な変化、発展を遂げるコンピュータ化を看護実践において情報交換、看護共同研究などにおいても活用は必須であり現実においても、イメージ的にも展開が期待される。最後に、看護婦・士に関する呼

称について, 両性(女性, 男性)を統一した名称を考え, “婦”だけではないイメージをさらに図ることも必要であろう<sup>22)</sup>。

## 7. 今後の課題

本研究で用いた独自の調査票, 分析手法についての信頼性, 妥当性の検証は不十分であり課題としている。

## まとめ

看護婦イメージを64項目の質問紙を用い, 現実像, 理想像, メディア像の3つの側面から検討した。

現実像では, ①体力が必要, ②観察力を要す, などであった。理想像では, ①観察力を要す, ②正確な, ③責任感の有るなどであった。メディア像では, ①白衣・キャップ, ②白い靴・ストッキング, などであった。絵による現実イメージでは, 輸液管理, 与薬, 脈拍測定などのイメージが強く, 情報管理のイメージが弱かった。

現実像, 理想像, メディア像の2群間比較では, 現実像がメディアより高い項目は看護婦の現実的な面を表し, メディア像が現実像より高い項目では, 外見, 否定的な項目であり両群では明らかな違いが見られた。

本研究の一部は, 日本看護科学学会第17回学術集会(神戸)において発表した。

## 文 献

- 1) 臼井千津, 渡部真理, 真嶋由貴恵他: わが国の看護婦イメージに関する構造分析研究, 神戸市看護大学紀要, 1: 49-56 (1997).
- 2) 松岡裕子, 山勢博彰, 小田正枝他: 看護婦のユニフォームに対する看護大学生の意識調査, 日本看護研究学会誌雑誌, 20(3): 192 (1997).
- 3) 村上信彦: 看護婦の制服の歴史の変遷, 看護学雑誌, 34(4): 39-43 (1970).
- 4) アン・ハドソン・ジョーンズ編著: 看護婦はどう見られてきたか 歴史, 芸術におけるイメージ(中島憲子監訳), 104, 時空出版, 東京(1997).
- 5) 河野友信, 唐木正敏, 広瀬俊雄 “他”: 職場の病, 女性管理職症候群, 147-155, 医学書院, 東京(1992).
- 6) 宗像恒次: 自己決定の行動学, 48-49, メヂカルフレンド社, 東京(1996).
- 7) 水島恵一: イメージ心理学9, 325-327, 大日本図書, 東京(1990).
- 8) 谷真子, 濱本ヤスエ, 七条昌子: 看護職に対する一般社会人のイメージ -和歌山県下の入通院経験者の調査より-, 第24回日本看護学会集録 看護総合, 29-33 (1993).
- 9) 石井範子, 志賀令明, 戸井田ひとみ “他”: 看護学生の看護に対するイメージの変容について -基礎看護学見学実習前・後の比較-, 秋田大学医技術短期大学部紀要, 2: 91-97 (1994).
- 10) 真鍋淳子, 野尻雅美, 中野正孝 “他”: 看護学生の看護婦イメージの研究 -大学生と短大生の比較, 看護教育, 35(6): 426-433 (1994).
- 11) 小野寺杜紀, 波田野梗子: 男子看護学生の看護職に対するイメージ -女子学生との比較-, 看護教育, 36(12): 970-976 (1995).
- 12) 縄秀志, 上泉和子, 島田陽子: 新規採用看護婦の自己イメージ, ナースへのイメージおよび仕事への期待の変化について -リアリティショックの予防を考える, 日第24回日本看護学会集録 看護管理, 140-146 (1993).
- 13) 日本看護協会調査研究室編: 日本看護協会調査報告書No. 47: 看護教育と看護業務の新たなあり方, 職業意識, 56-57, 日本看護協会出版会, 東京(1996).
- 14) 日本看護協会調査研究室編: 日本看護協会調査報告書No. 45: 看護職員実態調査, 45-48, 日本看護協会出版会, 東京(1996).
- 15) 日本看護協会調査研究室編: 日本看護協会調査報告書No. 50: 病院看護基礎調査調査, 49-52, 日本看護協会出版会, 東京(1997).
- 16) 虎の門病院看護部編: TNS「忙しさの尺度と看護人員配置」, 122-131, メヂカルフレンド社, 東京(1990).
- 17) 武田敏, 川野雅資: 看護と性, 102-109, 看護の科学者, 東京(1991).
- 18) 志自岐康子: 看護職の専門職的自律性 その意義と研究, 23-37, インターナショナル・ナーシング・レビュー, 日本看護協会出版会, 東京(1995).
- 19) ダイアンK.ケルヒク, アイダM.マーティン編: 小玉香津子訳, 女性とストレス看護の視点2 看護婦のストレス, 看護のストレス, 118-120, 日本看護協会出版会, 東京(1986).
- 20) ダイアンK.ケルヒク, アイダM.マーティン編: 小玉香津子訳, 女性とストレス看護の視点2 生理的・社会的・文化的因子とストレス, 74-77, 日本看護協会出版会, 東京(1986).

122 神戸市看護大学紀要 Vol. 3, 1999

- 21) アン・ハドソン・ジョーンズ編著：看護婦はどう見られてきたか 歴史、芸術におけるイメージ (中島憲子監訳), 249, 時空出版, 東京 (1997).
- 22) 上野千鶴子編：きっと変えられる性差別語, 156, 三省堂, 東京 (1996).

(受付：1998年12月24日；受理：1999年2月17日)